

新市民会館の平均的な利用イメージ

事業項目	大ホール		小ホール		中期計画の方向性		
	想定利用日数	事業方針	想定利用日数	事業方針	初期(開館年)	初期(2~3年)	中期(4~6年)
鑑賞型事業	約60日 1演目4日利用×15演目	これまで松本市では鑑賞できなかったサイトウ・キネン・フェスティバルに相当する質の高い舞台芸術を紹介 長野県下から1公演2,400~3,600人集客できるような演目をラインナップ 想定プログラム:海外クラシックバレエ、国内外一流オーケストラ、海外一流ダンス、歌舞伎等古典芸能、ヒットミュージカル、国内人気プロデュース演劇作品	約60日 フェスティバル20日利用×1 1演目5日利用×8演目	松本演劇祭、高校演劇祭、市民芸術祭といったフェスティバル型事業を実施	約60日(大) 開館年はオープニング記念として大型鑑賞事業の充実を図る。  約40日(小) 小ホールの空間の可能性を示す鑑賞事業を提供	約60日(大・小) 集客数の拡大を図る。	鑑賞事業の内容を整理する。
創造型事業 (市民参加事業含む)	約30日 1演目15日利用×2演目(稽古込み)	専門ホールとしての格をつくる。 サイトウ・キネン・オペラと並ぶ質の高い発信型創造事業、市民創造事業のプロデュース			約30日(大) 約20日(小) 創造事業は実施せず、フェスティバルと合わせて、開館記念の市民参加企画等を検討	約30日(大) 本格的な創造事業に向けた準備期間として位置づけ	発信型創造事業、市民参加型創造事業のレパートリー化、事業化を図る。
普及・育成型事業	現段階では普及・育成事業の利用日数は想定せず	小中学校、大学など地域との連携により実施 教育県としての蓄積を活かし、育成事業による地域外への発信も視野に入れる。 市民を対象にした舞台芸術系の研修事業や講座型事業の充実を図る。		大ホールに同じ	市民・地域・教育機関と連携を図る準備期間として位置づけ	ニーズに応じた普及・育成プログラムの開発	通年カリキュラムとして再構成。創造事業との連携を図る。
貸館事業 (市民利用含む)	約220~200日	市民利用に関しては市民と協議	約280~260日		約70~50日(大) 約110~90日(小)	約220~200日(大) 約280~260日(小)	
サイトウ・キネン関連事業	約20~40日 フェスティバル期間中は全日使用	フェスティバル会場として利用 観光客を対象とした通年でのプログラムを別途検討(映像コーナー等)	約20~40日 フェスティバル期間中は全日使用	フェスティバル会場として利用	約20~40日(大・小) こけら落としはサイトウ・キネン・フェスティバルを想定	約20~40日(大・小)	新市民会館の自主事業とサイトウ・キネンを合わせて再構築
市主催等事業	約30日	成人式、消防出初式、社会福祉大会 他			約10日(大)	約30日(大)	
賑わい事業	地域と連携し、広場、ロビー、屋上庭園等を開放する賑わい事業を検討。 現段階ではホール利用日数は想定せず				約10日(大・小) オープニング記念として全館を開放した賑わい事業等を検討		

1演目当たりの利用日数は仕込み日、本番込みの日数

開館年の施設利用可能日数は200日程度と想定